

平成27年

10月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(果樹) 東予地方局産業振興課産地育成室

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0898) 68-7322(代)

TEL (0897) 57-9122

【天気予報】

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2012年	18.2	23.0	14.0	104.5
2013年	19.2	23.0	15.8	400.0
2014年	18.2	22.4	14.2	268.0
1981~2010年	18.2	22.2	14.7	115.5

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 落水時期

落水時期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌漑で土壌水分を保って下さい。落水が早いと、登熟不良となって品質低下を招くとともに、稈が弱まり倒伏しやすくなります。

2 適期収穫

刈取り時期は、早過ぎると未熟米や青米が多くなり収量も少なくなります。また、遅過ぎると茶米や胴割粒が発生するとともに、食味や品質が低下するため、下表の収穫適期基準を参考に適期刈取りして下さい。

【品種別収穫適期基準】

区分	ヒノヒカリ	にこまる	松山三井
出穂後積算温度 (°C)	900~1,100	1,000~1,150	1,050~1,200
最長稈黄変率 (%)	85	85~90	85~90
出穂後日数 (日)	40~46	42~48	42~50

3 乾燥

収穫後は速やかに乾燥機に張り込み、乾燥を始めて下さい。乾燥速度は1時間当たり0.8%以内とし、胴割れや乾燥むらを防ぐために急激な乾燥はしないで下さい。過乾燥は品質や食味を悪くするので、仕上げ水分は14.5~15.0%が目標です。

4 調製

事前に籾摺り機の点検や部品(ゴムローラ等)交換や調製を行い、玄米の肌ずれや胴割れ米の発生を防止して下さい。

調製はライスグレーダーを使用し、整粒歩合80%以上を目標にして下さい。ふるい目は、1.85mm以上を使用し、未熟粒を除去し、上位等級に仕上げして下さい。

<真鍋>

【野菜】

1 サトイモ

10月はサトイモの本格的な収穫時期に入ります。

芽つぶれ芋や変形芋等を混入しないように、庭先選別を徹底し、計画的に出荷して下さい。

2 ヤマノイモ

茎葉が完全に黄化するまでは、土壌が過度に乾燥しないように水管理して下さい。茎葉が黄化した以降は、排水対策に努めて下さい。

3 ソラマメ

(1) 高品質安定生産のポイント

①土づくり ②高うね栽培(排水対策) ③適期播種(10月7日~15日頃) ④誘引の徹底です。

(2) ポット育苗

種子は10a当たり8ℓ程度準備し、「おはぐる部分」を斜め下にして、種子の尻部がわずかに見える程度に1粒ずつ土に差込みます。害虫防除のため不織布等で被覆して下さい。

(3) 施肥・定植

土づくりとしては、堆肥3,000kg/10a、苦土石灰100kg/10a、基肥として定植前1週間前によりん20kg/10a、菌根甘60kg/10aを施用し、マルチ張りは土壌に湿りのある状態でを行います。

定植苗は、本葉2枚半程度の若苗(播種後2週間程度)とし、深植えにならないよう注意して下さい。

栽植密度は、うね幅140~150cm×株間40~45cmです。

アブラムシ防除のため、植え穴にアドマイヤー1粒剤を1株当たり2g施用します。

<越智>

【果樹】

1 極早生温州の収穫

品質の均一化のために、果実の着色、品質をみながら分割採取します。傷果、浮皮果、日焼け果は除去するとともに、果実を傷つけたり強い衝撃を与えたりしないよう丁寧に扱って、腐敗果の発生・混入を防いで下さい。

2 早生・普通温州みかんの防除と摘果

腐敗防止のためトップジンM水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布します。

樹上選果では、傷果や小玉果を摘果するほか、果梗枝が太い上向きの大玉果実を除去して浮皮の発生軽減を図り、正品率の向上に努めて下さい。

3 中晩柑類の樹上選果

内成り・裾成りの見残しを中心に、果梗枝の太い極大果、小玉果、傷果等を樹上選果し、腐敗果や枯れ枝も除去して下さい。

4 収穫後の樹勢回復対策

果実生産で消耗した養分を補給して樹勢を回復させ、耐寒性向上と翌春の花芽分化を促すため、収穫期前後の秋肥施用や収穫後の液肥葉面散布をします。また、降雨がなく乾燥する場合は、適宜かん水して下さい。

<大西>

【花き・花木】

1 アネモネ

(1) 播種

アネモネ、ランタンキュラスとともに、播種適温は10~15°Cで、10月中旬以降が適期となります。20°C以上では発芽不良となるので早播きは避け播種します。アネモネの播種量は1kg/10aを目安とし、乾いた土で種をほぐし均一に播種します。堆肥等で種が隠れる程度に覆土し、ドラム缶で鎮圧します。

(2) 除草

播種後10~12日後に除草剤を散布します。

2 ランタンキュラス

(1) 播種

ランタンキュラスの播種量は7~10ℓ/100㎡、堆肥等で種子が隠れる程度に覆土し、ドラム缶で鎮圧します。

(2) 敷きワラと灌水

不織布やワラなどで被覆し、乾燥を防止し随時灌水します。2~3週間後、発芽し始めたなら徐々に敷きワラをのけます。

3 シキミ

病虫害防除

アブラムシ、ハマキムシの発生が見られたら、トレボン乳剤2,000倍を散布します。黒シミ斑点病や輪紋葉枯れ病が見られる圃場では、トップジンM水和剤2,000倍を散布し、下枝を伐採し過湿を避け通気性をよくします。

<日野>

【畜産】

1 飼料給餌

夏の猛暑も終わり、一転して急激に最低気温が低下する時期を迎えました。家畜は来る冬に備えて、飼料をこれまで以上に採食するようになりますので、それに合わせた飼養管理が必要となります。飼料が不足して栄養状態が悪くなると、母豚や母牛では発情微弱や発情再帰が遅れる場合がありますので注意するとともに、発情の観察と早期発見に心掛けて下さい。

2 畜舎内環境

夏場の畜舎は換気、通風を主力に設定してきましたが、夜風が冷たくなるこれからの季節は、雛や子豚、仔牛などは風邪をひきやすくなります。畜舎内に吹き込む風の向きや風の質を調整し直しましょう。この調整は、風向きの変わる夕暮れ時に行ってください。

また、敷料はよく乾燥したものを使用するようにします。古く湿った敷料は「カビ性肺炎」を引き起こしたり、腹部を冷やす原因になりますので注意して下さい。

3 秋ハエ対策

主な発生源は、畜舎内に堆積した糞尿や給餌器内の残飼、適切に処理ができていない糞尿処理施設の堆肥などです。これらを適切に処理するとともに、ハエの発生時には殺虫剤(ネポレックス、デミリン等)を散布して下さい。

<中谷>